



高橋余一の「生活絵巻」



23 太田の渡し

明治35年3月、太田の渡しに鋼鉄線をつなぎ、流れを利用して動く船が登場しました。岡田只治おかただただじが考案したため、岡田式渡船と呼ばれました。一隻で例えば、50人、荷車5台、馬車2台を同時に運ぶことができました。

「生活絵巻」には、岡田式渡船に乗って川を渡る人たちが描かれます。日傘をさした人や自転車と一緒に乗る人、船首には棹さおを持った船頭さんが座っています。

(上の絵)

太田之(通称岡田式と呼んでゐた)渡船場

馬車などもそのまゝ乗り入れる大きな船だ

木曾の懸橋(棧道)かけはし、うすみ峠と共に仲仙道(木曾街道)の三大難所として往時の旅人達に恐れられた

太田の渡しは現在の太田橋から更に下流 松林のつきるあたりだったと言われる